

平成 25 年度 第 2 回 松戸市子ども・子育て会議」 会議録（要旨）

1. 日時	平成 25 年 11 月 18 日（月） 18 時 30 分～20 時 30 分
2. 場所	松戸市役所 議会棟 3 階 特別委員会室
3. 出席者	<p><委員>（50 音順）</p> <p>飯沼委員、石井委員、石田委員、伊藤委員、海老原委員、大川委員、沖委員、小野委員、神谷委員、小松崎委員、斉藤委員、鈴木委員、富永委員、奈賀委員、永瀬委員、成瀬委員、西委員、野中委員、文入委員、山口委員、渡辺委員</p>
4. 欠席者	森田委員
4. 傍聴者	8 名
5. 議事	<p>（1）松戸市の現状について</p> <p>①松戸市の子ども・子育て支援の取り組み状況等について</p> <p>②次世代育成支援行動計画の推進と評価について</p> <p>③松戸市子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果について</p> <p>（2）意見交換</p> <p>「地域でどのような子どもを育てたいか」</p>

1、開会

2、市長挨拶

- ・子育ての環境を整備する、社会で育てる仕組みをつくることは、国にとっても、県、市、個人にとっても、とても重要な課題である。
- ・従来、こういう政策は国が中心に動いていたが、今後、具体的なところは、各市で地域の実情に合わせ主体的に取り組み、対策を講じることができる計画である。
- ・子どもの居場所やいじめの問題など、子どもの環境をどうするかという問題も重要だが、質の問題も重要で、「どういった子どもを育てていくか」、「どういう大人になってほしいか」、「そのためにはどのような教育をしていくか」という議論が必要である。また、子どもは街の中で生活し育っていくので、街全体の環境がどうあるべきか。特に、私は、「子育て」、「教育」、「文化」に力を入れており、心豊かに育つ文化的な環境についての視点をもって議論して欲しい。

3、議事

（会長）

市長から熱い思いを語っていただき、この会議の重要性を感じている。では、早速、議事に入る。

○会議の成立

(事務局)

- ・総委員 22 名、21 名出席（欠席 1 名）。会議の成立を報告する。
- ・松戸市役所職員で構成するワーキングチームのメンバーが参加させていただいている。よろしくお願ひしたい。

○本日の傍聴の受け入れ

(事務局)

- ・8 名の方の傍聴の申し出あり。入室を許可する。

○議事の録音について

- ・議事録作成のため、了承。

(会長)

今日は非常に議事の内容が多いため、スムーズな進行を図りたい。協力をお願いしたい。

まず、次第の 3 の議事内容（1）松戸市の現状について①は事務局、②は次世代育成支援行動計画推進委員会委員長でもある齊藤委員より説明してもらう。質疑応答は時間の関係で、①②の説明が終わったところで時間をとる。

(事務局)

○①の松戸市の子ども・子育て支援の取り組み状況等について

事務局より、資料に添って説明。

○②の次世代育成支援行動計画の推進と評価について

齊藤委員より、資料に添って説明。

(会長)

2 点の内容について、質疑応答に入る。

(文入委員)

こどもフォーラムについて、対象者が市内在住在学の小中高生ということと、こどもモニターとなっているが、全体的な回数と参加人数、応募してきた子ども達の市内の居住分布等、何か特徴があったら聞きたい。

(事務局（子育て支援課長）)

今年のテーマは「子どもにとって魅力ある公園になるにはどうすれば良いか」ということで、本日の委員の神谷先生にご指導いただき、実際に子どもたちが 21 世紀の森と広場を見て回り、話し合いを行った。後日、子どもたちが市役所に集まり、グループ内で活発に意見を出しあい、市長の前で発表し、そのアイデアが一昨日 21 世紀の森と広場で、「森のこども館」事業としてオープンした。乳幼児から小学生、保護者まで 600 名弱の人々の参加があり、「落ち葉のプールで宝さがし」、「スキの迷路」など、様々な自然を使った工作活動を 1 日楽しんだ。これまでも「松戸駅前をどうしたら良いか」、「自分達が将来住んでみたい町はこんな町」といったような

様々なテーマに取り組んでおり、今後もそういった子ども達の視点を取り入れながら政策を推進したい。

(文入委員)

内容はよくわかったので、参加者の具体的な数、地域の子どもの状況はどうか。

(事務局（子育て支援課長補佐）)

参加者に関しては、昨年度が 34 名、一昨年は 20 名位、その前も 20 名位だった。昨年度より小学校にチラシを配り、夏休みの宿題、自由研究のひとつとして、夏休み期間に開催したので、参加者のお子さんが増えた。市内全域からの参加で、こどもモニターの子どもと、小学校からの参加があった。

(会長)

他にあるか。

(富永委員)

松戸市次世代育成行動計画の推進と評価についての資料 4 番目だが、『IV 全ての子どもたちが健やかに成長する』の「こども発達センターの地域支援体制の拡充（障害児相談支援事業所）の指定」とあるが、県がやっている事業ではないか。相談室も指定を受けているが、市が別途そういう事業所を指定しているのか。

(事務局（子ども子育て政策室長）)

この制度は平成 24 年度から、こども発達センターの地域支援体制の拡充の 1 つである「相談支援事業所」について、市が指定しているという意味である。

(富永委員)

松戸市内でこども発達センターだけが指定を受けているわけではないということ。また、こども発達センターが指定しているということでもないと解釈してよいか。

(事務局（子ども子育て政策室長）)

そのとおり。指定するのは松戸市で、こども発達センターは事業所として指定をされている。また市内に、新しく 10 ヶ所程度、お子さんに限らず、成人の方も含め、相談支援事業所がある。

(会長)

他にあるか。

(飯沼委員)

質問は、資料の 1 の 52 ページ。子どもが通う施設で、保育所、保育園、延長保育とあり、保育料について、子どもの年齢や所得に応じて、月額 3 才未満児が 0 円～64,700 円、3 歳児が 0 円～30,000 円、4 歳児以上 0 円～25,200 円と書いているが、これは保育料だけで、その他の例えば、遠足や行事などの材料費、或いは給食代なども入っているか。

(事務局（保育課長）)

こちらの保育料は、基本的な保育にかかる経費について、年齢ごとの所得に応じ

た金額が設定されている。公立保育所は、この費用の他に徴収というのではない。民間の保育園は、入所されている保護者の承認等をいただき、別途こちらの保育料以外に徴収をされることもある。ただ基本的な、たとえば昼食等の代金はこの中に全て含まれている。

(会長)

続いて、いったん質疑応答を打ち切り、次に進ませていただく。

○③の松戸市子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果について事務局より、資料に添って説明。

(会長)

質問はあるか。質問なし。限られた時間なので、次の議事に進ませていただく。

事務局側で、会議終了後に皆様からのご質問やご意見を出して頂く機会を設けているのでご利用いただきたい。

○意見交換

(会長)

議題（２）意見交換の時間とする。

事前にお知らせしたように４グループに分かれ実施。ワーキングチームと事務局と一緒に参加させて頂くのでご了承いただきたい。松戸市の現状とアンケート結果、（１）でご意見をいただいたものをもとに「地域でどのような子どもに育てたいか」ということを大きなテーマとして進め、グループで意見交換した後、次の会議につながるようグループごとの意見を報告していただく時間を設けたい。

まず、３つの柱を考えていただきながら進めていただきたい。１つめは「現在の松戸市の子どもや家族について、また地域の状況について、皆様方が日ごろ感じていること」、２つめは「子どもたちにどのように育ててほしいのか」、３つめは、その理想に向かって「これから子どもや保護者を支援する際に、どのような取り組みをしていくべきなのか、また取り組みがあればよいのか」ということについてグループの中で意見交換していただきたい。先ほどの次世代育成計画の後期計画の進捗状況、松戸市の現状、アンケートの満足度の状況を踏まえて忌憚りの無い意見を出していただきたい。

ワーキングチームのメンバー、事務局には記録及び模造紙にまとめる作業を手伝っていただくということでご了承願いたい。

今日は第１回目なので、大まかな意見交換にさせていただき、今後の計画に活かしていけるようにと思っている。

○意見交換発表

(会長)

グループごとの発表の時間とする。順番は年齢との関係でA、B、C、Dの順で、Aグループが「妊娠・出産から0歳児」、B、Cグループが「1～5歳児の就学前」、Dグループが「小中高校生の18歳まで」となる。それでは、順番にお願いしたい。

(Aグループ 石田委員)

グループメンバー：小野委員・永瀬委員・奈賀委員・西委員

このグループでは、妊娠から0歳児ということで話し合いをした。

現状として出てきたものをグループ分けし、「頑張りすぎる親」「不安」「いい親でありたい」「二極化」「コミュニケーションが苦手」という風になった。その中で、最近、頑張り過ぎるお母さんやお父さんが多いこと、良い親でありたいと頑張る人達とそうでもない人達の二極化を感じる。また、子育て中の不安が強かったり、子どもとどう関わり向き合えばよいのか分からない等、コミュニケーション力の弱さを感じる。

その現状を踏まえ、自己肯定感や自信を持っていないお母さん・お父さん達が多いので、地域で見守る目が大切ということになった。また、「必要なけんかはいっぱいやらせてあげられる」そんな世の中、地域になってもらいたいと思う。

これからの取り組みとしては、保育士養成校の学生でも子どもを抱いたことがないという現状があることから、妊娠前からの支援が必要である。中高生と乳幼児のふれあい体験や、妊婦期からの支援として、母子健康手帳を配布時に、1回はおやこDE広場や保育園に行くというような体験できるシステム作りなどができればよい。

(Bグループ 沖委員)

グループメンバー：飯沼委員・富永委員・野中委員・渡辺委員

就学前児童について話し合いをした。この中の現状として主だったものについて話をする。幼稚園と保育所の保育料に格差がある、裏返せば支援に格差があるというようなことになるのではないかと。また、しつけが分からない、子どもを育てた体験がない親が多い。また、異年齢体験が不足しているのではないかと、保護者が物事をよく知っているが、視野が少し狭い保護者が増えているのではないかと。コミュニケーション力が子どもも保護者も少し弱いのではないかと。これは私が出したのだが、「おしゃべりはする」、「会話もする」が本当の肉声の会話というのがちょっと少ないような気がする。あと、世代間交流も少し不足しているのではないかと現状があった。

これに対し理想として、全ての子どもが平等に成長できるような社会、当然そこ

にはハンデキャップのある子どもも入る。あと、安全、安心に子どもも保護者も成長できるような、そんな社会が望ましいのではないか。また、就学前の保護者の役割が極めて大切である。特に生活の基本を身につけることなど、将来に渡って一番大きな影響を与えるのではないか。理想としては、繰り返すが、全ての子どもが平等に成長できるような社会が良いということである。

どういう風に育ってほしいかという点では、本人の年齢や身体状況に応じて、自立した子どもになれば良いということが出ている。

最終的に 今後どのような取り組みが必要かというのは、ひとつは、社会とつながる、子ども或いは保護者が社会とつながれる場所や機会、幼稚園と保育所で一日4時間ずつコアタイムを作って、そのコアタイムについては、松戸市の子どもとして共通の支援を行っていく。その4時間外は、自由にとということで。医療機関として、子どもの見守りと連携というようなことが出された。

このような中で、これからの取り組みとして一本化していくところまでは、グループとして話し合えなかった。分散してしまったが、以上をもって報告とする。

(C グループ 海老原委員)

グループメンバー：小松崎委員・斉藤委員・鈴木委員・文入委員

未就学児の C グループでは、現状としては、挨拶があまり出来ない子どもや親がいる。また、すぐにカッとなってしまう、自己コントロールが出来ない子どもがいる。また、親がスマホを見ながら歩いているとか、子どもの手をつないであげられてないというような親子関係がみられるとか、親自身・子自身の問題点が意見として出された。

どのように育ってほしいかという点では、ゆとりのある中で食卓を囲みながらみんなで会話をする、子どもの意見や話を聞いてあげられるような時間を持てる。また、遊びや体験が出来るような機会を増やして、子ども自身の体力やコミュニケーション力を育くむ。そのような環境の中で子どもたちが育ってほしいという話になった。

これからの取り組みとしては、先ほど出たような幼稚園と保育園との連携、教育費の軽減、親の学びの場や親子で楽しく遊べる公園づくり、色々なところへ遊びに行けるような地域になってほしい等、たくさんの意見が出されたが、初期には全ての面で仕掛け（人）が必要であるということで一致した。

(D グループ 神谷委員)

グループメンバー：伊藤委員・石井委員・大川委員・成瀬委員・山口委員

アンケートをもとに気づきを書いた。それを集めてみると一番多くなったのは、保護者の状況ということで、小学校、中学校、高等学校になると子育てに関して無

関心になっていくということが表れていた。また、地域行事への参加が非常に少ない、減っているということがリアルに出ていた。それから居場所がないということ。例えば、遊び場が限られている、外遊びをする場所や子どもが集まれる場所がない。或いは、学年が上がっていくと、もう行ける所はゲームセンター、カラオケ、ショッピングセンター等しかない。そういった現状が松戸にはあるのではないかということである。特に子ども達の場合、学年が上がれば上がるほど多忙な子どもが増え、一方では無目的というか何にもしていない、家でぶらぶらしているというような二極化した子どもが増えている。そういった子ども達に対して、親に対してということにもなるが、支援活動が非常に不足している現状がありそうだ。

このような中で、どのように我々は育ってほしいかといった時に、人との関わり合いを持ちながら生活力や社会力を身に付けることが出来ない、これから松戸の将来が非常に暗くなるのではないか。そのようなところを育てることが必要で、それが地域への愛着を育て、将来の松戸を造っていくのではないか。そのあたりを考えていく必要がある。具体的には、コミュニケーションがあるとか、世代間交流があるとか、異年齢交流があるとか、仲間作りをするとか、親子関係を深めるとか、或いは 子どもの生活技術や生活体験を深めるとか、そのような細かい項目が出てきた。

そのためにどうしたらいいのかという点では、ひとつは、親の教育力をアップする機会を数多くつくる。それから新たな居場所づくりが必要。そして、そのようなところに地域の人材の活用が大切になる。また学年が上がれば、単にこちらが用意したイベントに参加するのではなく、子ども自身が参画していくような活動が必要である。そのようなことを色々な団体と連携して行うべきだろうという議論が行われた。

○全体討議

(会長)

報告を聞いて、意見を述べておきたいという方がいたら伺う。

(鈴木委員)

先ほどの松戸市の現状というところで、みなさんに知っておいて頂きたいのは、東京の江戸川区と松戸市の補助金の格差が12倍以上もあるということである。保育料の補助は、江戸川区は月額25,000円、松戸市は年額25,000円。先ほどは良い事ばかりデータが出されていたが、幼稚園の補助が少ないという現状を知っておいてほしい。松戸市は今まで保育園ばかりやってきて、幼稚園は県の管轄で、行政のほうも知らなかった面があったと思うが、船橋市と比べてもだいぶ低いので、今回、要望書も出したが、そういった現状も知っておいてもらいたい。

(会長)

現状の補足…ということの意見があった。他にあるか。

今日のグループ討議の意見については、ワーキンググループのメンバーと事務局が入っているので、次回の会議に活かせるようまとめてもらう。更なるご意見やご質問等については、後日送付いただくと併せて事務局がまとめる。

意見交換の時間が非常に短く申し訳なかったが、議事内容については終了とする。

4、その他（次回の会議について）

（事務局）

第3回目は、平成26年1月20日（月）の午後6時30分からを予定している。場所は本日と同じ、議会棟3階特別委員会室。内容は、本日の皆様の意見内容を基に、市町村事業計画につなげていけるよう、さらに深めていきたい。また、各事業の見込量などにも触れたいと考えている。また、第4回目は、平成26年3月25日（火）を予定している。場所は、未定。予定の調整をお願いしたい。

5、閉会